

テレビ教材活用における子供の人間理解の深まり — NHK 「みんな生きている」 から —

小堂 十¹、根本 徹²、佐島 群巳³、菊地 紀子³

杉並区立久我山小学校¹、東京学芸大学附属小金井小学校²、帝京短期大学³

The development of the understanding about the human being of the children
using the broadcast teaching materials for school
-The Case of NHK "MINNA IKITEIRU" -

Tsunashi KODOU¹, Tooru NEMOTO², Tomomi SAJIMA³, Noriko KIKUCHI³

Kugayama Elementary School in Suginami-city¹,
Koganei Elementary School Attached to Tokyo Gakugei University², Teikyo Junior College³

Summary

The children, in the recent years of information environment, is allowed to slow down the self-presence and human intelligence, there is a possibility to decline its sensibility.

Therefore, in this study, we were dealing with the case of the development of the understanding about the human being of the children using the broadcast teaching materials for school. In the case, children were presented the teaching materials, such as can be sincerely pursue the understanding about the human being. By that thing, was encountered with humans that appeared in the video, resonance, empathy to the character, and the self-presence, we were able to ascertain the potential that can be fostered along with the classmate.

要 旨

子どもたちには、近年の情報環境の中で、自己存在感と人間的知性を鈍化させ、その感性を衰退させるおそれがある。

そこで本研究では、学校放送教材を活用した人間理解の深まりの事例を扱った。事例では、子どもが人間理解を真摯に追究できるような教材を提示した。その事によって、映像に登場する人間と出合わせ、登場人物への共鳴・共感、そして自己存在感を、学習集団と共に醸成させることができる可能性を確かめることが出来た。

1. 問題の所在

学校放送は、放送開始から半世紀が過ぎた。その間、教科学習、道徳、特別活動など学校教育に関わる番組が編成されてきた。1998（平成10）年度学習指導要領に「総合的な学習の時間（以下総合的学習）」が新設され、小学校3年から高等学校まで、相当な時間を要して総合的学習が展開されてきた。

総合的学習は、①児童・生徒の興味関心からの課題、②地域的課題、③社会的要請課題を取り上げて展開することになっている。しかし、本来は、総合的学習の動機付け「入口」として、上記の①や②が、基本的には③の社会的要請課題、すなわち「国際理解」「情報」「環境」「福祉健康」の四つのテーマに収斂されな

ければならないのである。

学校放送では、教育課程の改善に伴った「番組編成」がなされ『総合番組』が構成された。本研究で取り上げた番組「みんな生きている」は、生命教育・道徳教育に活用できる番組としての性格をもち、1993（平成5）年から編成されてきた。ここで取り上げる学校放送教材は、NHK学校放送のもつ「映像構成技法」の特性を生かして製作されたものである。すなわち「みんな生きている」は『人間ドラマ』として表現していることである。「みんな生きている」の番組を「人間ドラマ構成」にしたのは、映像の中の人間の働き、営み、願いに、視聴者の感性、認識、態度を培いたいと考えたからであろう。

これまで、NHK学校放送番組「みんな生きてい

る」を活用した研究^{1)~10)}は、実際に放送されていた
当時から近年まで、多数行われてきている。これらの
ことを考えてみても、時代が変わり、子供たちを取り
巻く環境がどう変わろうとも、子供たちの心に訴える
内容となっていることは明らかである。

近年、核家族化は進み、地域コミュニティとの関係
性の希薄さなど、今日の子供を取り巻く環境は、多様
な年代の人との触れ合いがますます減り、人間関係と
しての多様性を失くす傾向にある。それに加えて、防
犯や事故の心配から外遊びが減り、習い事や塾通いに
忙しい子供たちは、同年代の子供との関係性も希薄に
なっている可能性が高く、一つの家に集まっても、
各々が携帯ゲーム機を持ち、会話もなく遊ぶ姿から、
遊ぶ環境の多様性も失くす傾向にあると考えられる。
子供たちの身近なメディアであるテレビやラジオ・D
V Dの視聴時間は、中学生ではおよそ65%の子供が
2時間から4時間と長い時間の視聴をしている。また、
小学生では、4時間以上の視聴率がさらに高くなり、
平日では24%の子供が、さらに、2時間以上から
4時間以上までを合わせると約70%の子供が長時
間の視聴をすることになっている¹¹⁾。このほか、近年
スマートホンや携帯型テレビゲームの普及でそれらを
操作する時間は「計り知れない時間」であるといわれ
ている。

このような情報環境、バーチャルな環境に支配され
るために、子供たちは、自己存在感と人間の知性を鈍
化させ衰退させるおそれがある。

また、子供たちを指導する立場にある教師は、団塊
の世代の大量退職により、若いキャリアの短い教師
も、ベテランの教師と同じ力量を要求されることにな
る。学校放送教材の活用は、このような教師の指導力
の格差を埋めるためにも、有用であると考えられる。

そこで学校放送教材は、子供たちを放送教材と向き
合わせ、映像に登場する人間との出会いを通して、共
鳴・共感、自己存在感を醸成させることができると考
え、本研究に取り組んだわけである。

2. 研究の目的

- (1) テレビ教材「みんな生きている」を視聴した子
供たちは、映像の人間の生き方に対して、どの
ような反応傾向を示すか明らかにする。
- (2) 子供の映像に対する反応傾向から「テレビ教材
のもつ教材の価値」を明らかにする。

3. 研究方法

(1) テレビ教材の分析

- ①ドキュメンタリー性の高いテレビ教材の一般的特性
- ②「みんな生きている」の教材性の明確化

(2) 番組活用した授業の分析

- ①学校放送番組「みんな生きている『いつまでもいっ
しょだよ』」15分番組を視聴する。
- ②視聴後『いつまでもいっしょだよ』について自分が
感じたこと、考えたことをノートに記述する。
 - ・番組視聴直後の児童の感想を記述する。
 - ・授業終了時、学び合い後に「自分に伝えたいこ
と」を記述する。
- ③ノートに記述した言葉を、番組の流れに沿ってテレ
ビ教材の性格や分析カテゴリーによって分析、考察
する。

(3) 研究対象校別の視聴の比較分析

- ①比較対象(担当)
 - ・杉並区立久我山小学校(小堂)
2年(21名)・4年(31名)・6年(29名)
 - ・東京学芸大学附属小金井小学校(根本)
2年(35名)・4年(40名)・6年(37名)
- ②授業実施時期
平成25年5月～9月

4. 研究の成果と考察

(1) テレビ教材の分析

1)ドキュメンタリー性の高いテレビ教材の一般特性
放送教材の教育的特性として、佐島群巳は以下の4
点を挙げている¹²⁾。

- ①映像の動き、変化のおもしろさ、巧みさに引か
れ、映像の奥にある事実やその関係について理解
と認識が深められる。
- ②学習の追求意欲の限りない可能性が開ける。
- ③情報リテラシーが形成できる。
- ④映像に対する共感を与え、人間理解を深められる。

これらは放送教材一般的特性と言えるが、「みんな
生きている」のようにドキュメンタリー性が高いテレ
ビ教材のもつ教育的価値は、番組視聴を通し人間形成
に果たす役割はさらに大きなものになる。

それは、自分と同世代の子供たちの生の姿を客観的
に見る機会は、子供たちの生活の中ではないことにあ
る。番組を通してしかできない体験だからである。こ
れは、テレビ教材があくまでも疑似体験という限界性
ではありながらも、疑似体験だからこそ、子供たちが
自分や自分たちを見つめることができる教材であり、
ここに放送教材を視聴することの意義がある。番組を
視聴しているうちに、番組の中の同世代の子供の姿が

次第に自分の生活とシンクロナイズして、自分の周りを見つめ、自分自身を見つめ直すきっかけとなる。

このような視点から、テレビ教材を分析すると、以下のような性格が考えられる。

①ドラマ性

テレビ教材の優れた特性の一つとして「ドラマ性」がある。ドキュメンタリーは決められた時間の中で、制作者の意図はありながらも、取材される人の立場に立った制作が求められる。取材される側は演技をするのではなく、自分のありのままを伝えることになる。ドキュメンタリーは、予測のつかないストーリー性が高く、それだけに視聴する子供たちには迫真性があり、ドラマチックなストーリーは感性を刺激し、自然と感情移入することになる。

子供たちは、映像を見ながら、「おやっ」と疑問をもったり、「おーっ」と驚いたりして、番組に引き込まれていく。さらに番組の中の子が、努力や工夫しながら自分の課題を乗り越えていく姿や家族や友達などのかかわりを得て成長していく様子を一緒に応援していくようになる。

②共感性

テレビの登場人物が、自分たちと同じ子供であることは、親近感を高める。この登場人物との出会いを通して視聴する学習者は、共感的な人間の価値観を開眼する。この「共感性（親近性）」はテレビ教材の特性である。

副読本を活用した道徳の授業では、資料教材を読み取っていく中で、登場人物の心情を読み取りながら道徳的価値に次第に気付いていく。

テレビ教材では、音と映像を通じて感じ取っていくことが主になる。同じ言葉でも、読み取るのと視覚と聴覚を通して感じ取るのでは、受け止めは違ってくる。映像から伝わる登場人物の表情や周りの様子は、読まなくても感じ取ることができる。このように、テレビ教材は、読んで理解するという過程を経ずして、子供たちが感じ取ることができるため、ほぼすべての児童が共感的に受け止めることができる。

感じたものは、決して同一のものでなくてよい。その子なりの感じ方を、大切にできることがテレビ教材の良さである。

この点は、一定の価値項目を目指して授業展開を進める道徳の授業との違いが出てくる。したがって、ドキュメンタリー性の高い「みんな生きている」のような番組は、「道徳」ではなく、生命教育として『総合的な学習の時間』や「学級活動」で活用することが多いようである。

③主体性

先にあげた「ドラマ性」「共感性」を経て、テレビ

教材の最も大切な特性として「主体性」がある。

現行学習指導要領の大きな目玉は「生きる力」である。かなり広い意味をもつ言葉であるが、「主体性」は、大切な要素であり、子供たちだけでなく今の私たちに求められている大切な要素である。

「主体性」はテレビ教材を活用した人間理解の学習においても、ここに至れるかどうかは教材の価値を決めるといっても過言ではない。

映像の「ドラマ性」による感性の揺さぶりは、やがて自分自身や自分の周囲を見つめる「共感性」へと広がり、新たな境涯に立つことができた自己はより高い自分自身に向かって、具体的に取り組もうとする「主体性」へと高まっていくことが大切である。

この「自己実現（自己同一性）」へのエネルギーに昇華できる力がテレビ教材の特性であり、私がテレビ教材を生かして実践することにおいても重点にしていきたいことである。

2) 「みんな生きている」の教材性

「みんな生きている」という番組は、総合的な学習の時間や道徳教育の教材として活用されている。この番組の「学習のねらい」については、NHK学校放送テキスト（平成18年度）に次のように述べられている。

（傍線は筆者）

「(略) この番組は、子供からお年寄りまで、さまざまな人間の姿をドキュメンタリーで紹介します。一人一人違った感じ方、考え方があることに気付付き、お互いに違いを認め、「いのち」の重さ、尊さを感じ取ってほしいと願っています。

頻発する自然災害、不況、リストラ、家庭不和、児童虐待など、子供を取り巻く環境は、必ずしも明るくありません。おとなたちさえ確かな価値観を失いがちな時代です。しかし、そんな中で前向きに生きようとする力強い子供たちの姿があります。

「夢を持つ喜び」「人の心のきずな」そして何よりも「生きていることの素晴らしさ」・・あたりまえのこの大切さが問われる時代だからこそ、純粋にひたむきに生きようとする子供たちの姿は、未来への希望と勇気を与えてくれます。子供たちの本来持っている力や強さやみずみずしい心をのぼすが、今こそ必要なことではないでしょうか。

番組では、人が生きる途上で出会う悩みや苦しみに正面から向き合っていこうとする姿をドキュメントします。

その生き様に込められたメッセージが、子供の心を耕すとともに、豊かな感性を引き出すことができたらと考えています。(略)」

表1. テレビ教材の性格から見た「番組のねらい」と「分析カテゴリー」

テレビ教材の性格	番組のねらい	分析カテゴリー
ドラマ性	人間の在り方に着目させ、人間の命の大切さに気付かせる番組	A 家族愛・人間愛
		B 航平君の強い意志
共感性	テレビの登場人物との出会いを通して視聴する学習者の共感的な人間の価値観を開眼させ感性をゆさぶる番組	C 闘病への共感、生きることへの大切さ
		D 生命の大切さ
主体性	自分の生き方、在り方について番組視聴を通して気付かせる番組	E 現代社会へのなげき、批判
		F 自己対象化

上記テキストで示された「番組のねらい」をもとに、「みんな生きている / いつまでもいっしょだよ」の特性を分析し、①ドラマ性 ②共感性 ③主体性の3点で整理してみた。

この番組のねらいは、「5年3ヶ月という短い命を一生懸命生き抜く男の子（航平君）がいる。最後まで家族のことを考えていた男の子。そして、男の子を励まし続けた両親や兄弟たち。家族の姿を通して、生きる意味を問いかける。」である。

このねらいをテレビ教材の性格から整理し、これに番組内容にそった分析カテゴリーを加え、表1に整理した。

①航平君との出会いと対話（ドラマ性）

子供たちは、「いつまでもいっしょだよ」というドキュメンタリーを通じて、重い病にかかりながらも、自分自身の命を全うして生きていく航平君と出会う。テレビを通じながらではあるが、そこには、自分たちに年齢的にも近い航平君が実際に生きた姿があり子供たちは次第にその世界に入り込んでいく。航平君の真剣な人間ドラマは、視聴活動を通じて子供たちに命の尊さや一生懸命に生きることの大切さを語りかけてくれる。

この「ドラマ性」より、子供たちは「A 家族愛・人間愛」と「B 航平君の強い意志」を感じ取ると考えた。

②病と闘う航平君の限られた命を最大限に生かそうとする営み（共感性）

航平君の生きる姿によって揺さぶられた子供たちは、自分自身の生活に当てはめて比べたり関連付けたりしながら、共感的に受け止める。これによって、番組を通じて初めて出会った航平君から、共感的に受け止めることで、自分を見つめ直すことができる。

「共感性」により、子供たちは「C 闘病への共感、生きることの大切さ」「D 生命の大切さ」に気付くものと考えた。

③人の営みへのかかわり（主体性）

航平君の生きる姿からの感動は、子供たち一人一人が番組の主人公との対話（視聴活動）を通じて感じ取り、自分自身を見つめ直すことになる。

さらに、そこで終わるのではなく、自分自身のこれからの生き方や在り方を見つめ直す力を持っているのがテレビ教材である。このように番組を通じて自分たちがどのように生きていったら良いかを考えることを「E 現代社会へのなげき、批判」「F 自己対象化」させる表現が表れた時を「主体性」の発露として捉え、分析を加えた。

以上のようにして、テレビ教材の3つの性格に「いつまでもいっしょだよ」の番組から受け止められる分析カテゴリーの視点で、子供たちからの記述を分析・検討することにした。

（2）番組活用した授業の分析

『いつまでもいっしょだよ』の番組構成については巻末で資料1に示した。

①授業展開

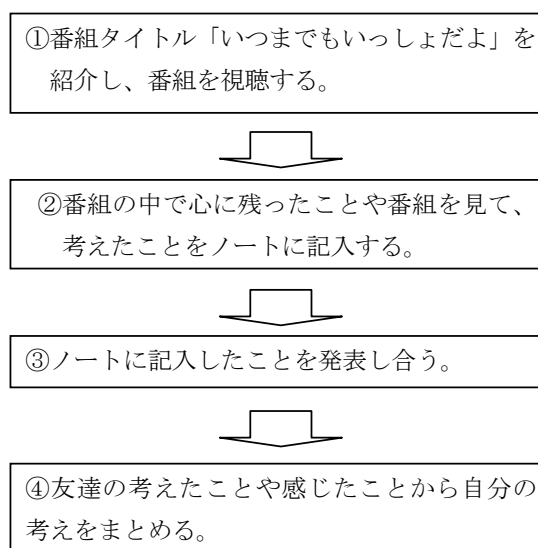


図1. 「いつまでもいっしょだよ」の授業展開

本時の授業の流れについては、図1の通りで、すべての学級で行った。流れの中で配慮した点は、子供たちがテレビ教材を通して感じたことを書けるようノートに記入する時間は、学年に応じて8～10分程度与えた。また、発表では、自分だけの考えに終わらず友達からの考えを聞けるよう協同的な学び合いの場面を設けた。この成果は、自分を見つめる段階で生かしていけると考えた。

②番組の流れと子供の視聴傾向

巻末資料2は、資料1の番組構成の場面に対応した子供たちの主な視聴傾向である。内容をもとに、表1に示した「分析カテゴリー」で番組の流れに沿って整理してみた。

以下に、番組の各場面での、子供たちの心に残ったことを記しながら（ドラマ性）、そこから共感し学んだことを取り上げ（共感性）、視聴を通して自分の生き方や在り方について考えた記述（主体性）を書き出してみた。

【場面1】

この場面は番組のプロローグであり、航平君の在りし日の写真を見ながら、航平君の人生の概略が解説される。真剣に番組を視聴しようとする子供たちの姿が見られた。

【場面2】

場面1の航平君の紹介に続いて、場面2からは家族が実際に撮影したビデオが流れる。ここでは、病気を克服するために苦い薬を飲んだり大人でも苦しい治療うけたりする航平君の姿に驚きと感心をもって視聴する姿があった（ドラマ性）。

この必死に生きようとする様子から、生きることの大切さや頑張ることの価値への気づきがあった（共感性）。

これらの感動や気づきを経て、自分も「あきらめずがんばって生きていきたい（4年）」、病気の祖母に対し「孫の私たちが支えて毎日楽しく生きて欲しい（6年）」などの主体的な発言が見られた（主体性）。

【場面3】

自分がもらったプレゼントを弟たちにプレゼントしようとする航平君の姿に兄弟を慕う気持ちを感じ取っていた（ドラマ性）。

この姿から、航平君の心の優しさや人を励ますこと大切さを感じ取っている（共感性）。

そこから自分自身の生きる姿として「命を大切にしながら生きていこう（4年）」「人を思いやって生きていくことが大切ということ伝えたい（6年）」といった自分の生き方を考える姿があった（主体性）。

【場面4】

久しぶりに病院から出て家に帰り弟たちと会えるこ

とになった日の航平君の家族とのかかわりの様子が流れる。お兄さんとして弟たちを愛しむように接する航平君であったが、別れの際には我慢していたが弟たちが見えなくなると大粒の涙を流す姿は、子供たちの気持ちを大きく揺さぶった（ドラマ性）。

その姿から、頑張っていることの大切さや航平君の家族を思う気持ちへの共感が見える（共感性）。

「自分だけのことでなく、周りの人の喜びや、悲しみに目を向けて励ましたりできるようになりたい（6年）」「頑張っている人はたくさんいると分かったので、僕はもっと頑張ろう（4年）」というように、自分自身のこれからの生き方を示唆する姿があった（主体性）。

【場面5】

再び病院に入り治療に専念することになる航平君の様子が流れ、その中でも明るさを失わずに健気に生きる姿に揺り動かされている（ドラマ性）。

その姿から、命を大切にすることの意味や生きることの素晴らしさを感じている（共感性）。

「もし病気になって生きられなくなっても、航平君みたいに笑顔でいたい（2年）」のように航平君の生きる姿をモデルに自分も頑張ろうとする姿、「いつも家族と喧嘩しているけれど、そういうことも、生きているからこそできる（4年）」のように生きていることの価値に気付いている姿も見られた（主体性）。

【場面6】

闘病の中、1歳になる弟に対して命を削って誕生日カードを書く航平君の姿に生きることへの強い意志と家族への深い愛情を感じ取っている（ドラマ性）。

その姿に尊敬の念を抱いている子供もいた（共感性）。

『『生きる』『あきらめない』』ということも教えてもらった（2年）」「いろんな人のことも考えて今を生きよう（6年）」のように生き方とかかわり方を考える姿が見られた（主体性）。

【場面7】

いつ呼吸が止まってもおかしくない状態の中で、弟たちの写真を見つめながら生きる姿に家族の深いつながりを感じる（ドラマ性）と共に、それが生きる支えになっているや「一つしかない命」「一日の大切さ」を感じ取っていた（共感性）。

「これから大切にしよう！病気の人たちのことを思い出しながら（4年）」「家族を愛する心、献身の心を持ち、自分にできることはないか、考えて生活するべきだ（6年）」のように、今健康である自分の視点からこれから生き方や在り方を考える姿が見られた（主体性）。

【場面8】

酸素テントから弟たちと手をつなごうとする航平君の姿は、この番組の中での最も子供たちが心を揺さぶられた場面であった（ドラマ性）。

どんなに辛くても最後まであきらめない生き方に、生き抜くことの大切さを感じ取っていた（共感性）。

「命の大切さを航平君から教わったので、苦しんでいる人のために自分にできることをやっていきたい（4年）」「嬉しいことだけでなく悲しいことにも目を向けてこの先に何があっても最後まであきらめずにやりきる。そして、今までよりも家族と大切に過ごしたい（6年）」というように、自分が生きることと関連付けながら家族や周囲の人たちのつながりを大切にしていこうとする姿が見られた（主体性）。

【場面9】

航平君が亡くなって4年がたっても、家族の中で航平君が大切にされていることを、布団を敷く様子から番組タイトル「いつまでもいっしょだよ」を感じ取っていた（ドラマ性）。

その様子から、短い人生だけど充実した「生」について考える姿があった（共感性）。

「何でもかんでも思い通りにいかない。最後まで張り切って生きて、子供も産んで生きる。お姉ちゃんとして生きていかなきゃね（2年）」「自分のことで頭がいっぱいにならないで、お年寄り、病気の人にも気配りをしてあげる（4年）」「弟も兄のことを思う気持ちにとっても感動した。短い時間を自分たちよりも精一杯生きた。弟たちは小さかったのに、忘れずに「いつまでもいっしょだよ」と思い続けている。私もこの番組を見て、改めて『家族の大切さ』に気付かされた気がします（6年）」のように、自分の生活を見直し、

これからを大切に生きようとする姿が見られた（主体性）。

（3）研究対象校別の視聴の比較分析

1) 発達段階による様態

表2は、番組の「分析カテゴリー」に基づいて子供たちの傾向を示す一覧である。表3は、「分析カテゴリー」を包括した「テレビ教材の性格」に基づいて子供たちの傾向を示す一覧である。

表2では、それぞれの学校や学年に応じた視聴傾向の特徴が見られるのに対し、表3では、「ドラマ性」と「共感性」については、どの学年においても数値的な差がさほど見られない。それに対し、「主体性」については、学年が上がるにつれて数値が上がっていることが分かる。この分析結果から、テレビ教材は視聴活動という体験を通して、子供たちの心を揺り動かす教材であるとともに、自分たちの生き方を見直すことができる優れた教材性を持ちうる可能性があることが分かる。

また、「主体性」については、発達段階によって差がある。指導者はこの差を十分に理解したうえで日常の指導にあたることが大切であり、それぞれに個人差があることを配慮して子供たちにかかわっていかなくてはならない。

2) 「主体性」を促す学び合い

本実践では、テレビ教材視聴後の活動として、必ず子供同士の協働的な学びの場面として、児童同士が視聴後の感想を述べ合うために、学び合いの場を位置づけている。

「ドラマ性」「共感性」の高さは、表2や表3の結果

表2. テレビ視聴「いつまでもいっしょだよ」の分析カテゴリーによる小学生学年別傾向の一覧表

()内数字は%である

テレビ教材の性格	分析カテゴリー	頻 度						全体
		久我山小 2年 21名中	附属小金井小 2年 35名中	久我山小 4年 31名中	附属小金井小 4年 40名中	久我山小 6年 29名中	附属小金井小 6年 37名中	
ドラマ性	A 家族愛・人間愛	16(76)	28(80)	21(68)	34(75)	21(72)	32(86)	152(78)
	B 航平君の強い意志	10(48)	14(40)	18(58)	35(88)	20(69)	26(70)	123(64)
共感性	C 闘病への共感、生きることへの大切さ	12(57)	26(74)	19(61)	33(83)	20(69)	30(81)	140(73)
	D 生命の大切さ	10(48)	4(11)	14(45)	8(20)	9(31)	14(38)	59(31)
主体性	E 現代社会へのなげき、批判	0(0)	5(14)	0(0)	0(0)	4(14)	4(11)	13(7)
	F 自己対象化	9(43)	16(46)	21(68)	20(50)	21(72)	24(65)	111(58)

表3. テレビ視聴「いつまでもいっしょだよ」のテレビ教材の性格による小学生学年別傾向の一覧表

() 内数字は%である

テレビ教材の性格	頻 度						全体 193名中
	久我山小2年 21名中	附属小金井小2年 35名中	久我山小4年 31名中	附属小金井小4年 40名中	久我山小6年 29名中	附属小金井小6年 37名中	
ドラマ性	20(95)	33(94)	26(84)	39(98)	27(93)	36(97)	181(94)
共感性	17(81)	26(74)	26(84)	37(93)	24(83)	31(86)	161(83)
主体性	9(43)	18(51)	21(68)	20(50)	26(78)	25(68)	119(62)

※ 表3の数値が、表2の合計とは違う。これは、「ドラマ性」という特性の中に「A家族愛・人間愛」「B航平君の強い意志」という分析カテゴリーを位置づけているが、2つのカテゴリーに関して記述されていても、どちらか一方に記述されていても1つとカウントしているためである。

からも子供たちがテレビ教材に浸っている様子が十分に理解できる。しかし、視聴後のみのノートを分析すると、「主体性」まで至った子供はごく稀に見られるのみであった。友だちの考えや意見を聞いたりする活動は、自分自身の考えを見直すだけでなく、自分の行動を促すものと予測し、授業の終末には「自分に伝えたいこと」をノートに記述させた。すると、図2や図3-1や図3-2で示したような結果が得られた。

このことは、学び合いの場を取り入れることで、子供同士が互いに刺激し合うことになり、自分なりの主体性を発揮することができたことが示唆された。

子供の人間理解を深めるテレビ教材の主体的な活用は、価値あるテレビ教材を提示するだけで十分とはならない。そこには、その教材が有する分析カテゴリーAのような家族愛や人間愛から、分析カテゴリーFのような自己対象化に至るまでの価値を、その集団で共有したり、発見したり、吟味し直したりすることで、一層効果的な人間理解を保障することとなる。

3) 学び合いの実際例

子供達は、番組からの情報や学習での話し合いと共に、どのような家族愛や人間愛、生きる事への強い意志や闘病への共感、生命の大切さ、現代へのなげき、自己対象化を発揮し、深めていくのであろうか。

どの学年の子供達も航平君の生きようとする姿や家族を思う気持ちに終始引き込まれ、学習カードにその点を記載する例が多く見られた。

その際に、まず始めに子供の心を揺さぶる場面は、投薬に耐える航平君の姿である。「大人でもつらい治療」という番組ナレーションと対比して提示される航平君のあどけない表情に、低学年の子供も、高学年の子供も、自己を対象に投影し、静かに番組を見守る。この沈黙の共有が、改めて、航平君の偉大さや、その原動力となる家族の素晴らしさを各自に洞察させることとなる。

次に、子供達の心に刻まれるのは、念願の兄弟との自宅での至福の時間の後にやってくる、病院への車内

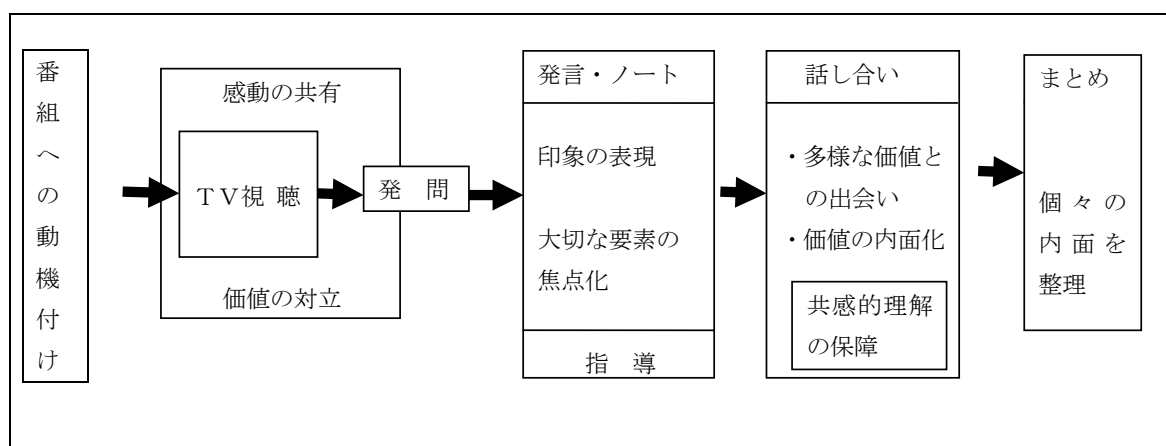


図2. 視聴過程<授業過程のモデル図>

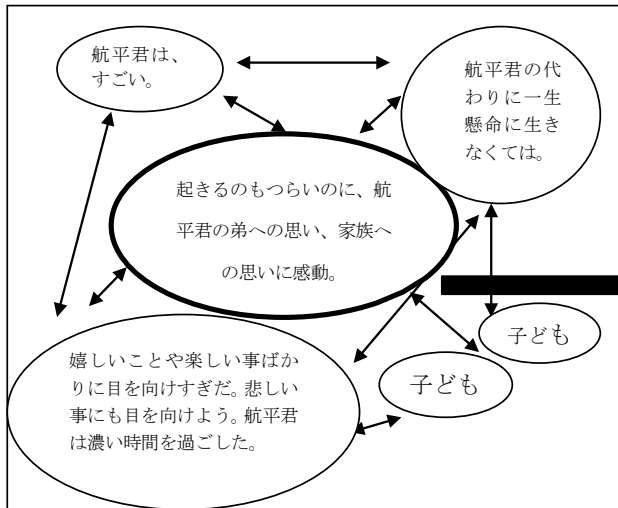


図3-1. 子ども達の視聴後の反応

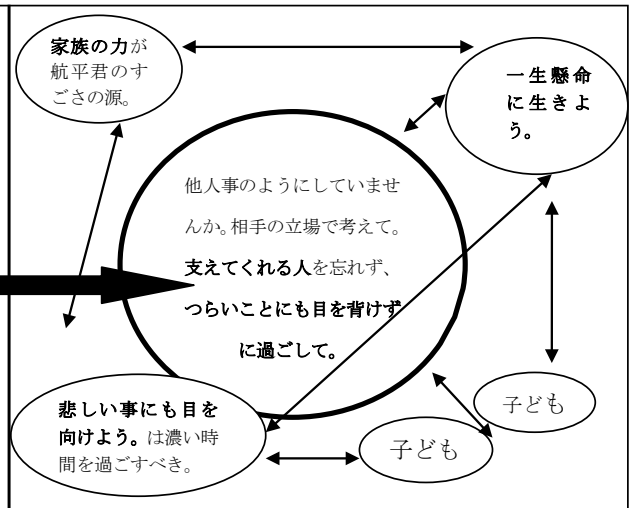


図3-2. 子ども達の話し合い後の反応

の様子である。少なめに設定されながら、航平君の心情理解を促す「涙が止まりませんでした。」の言葉に、多くの子供は息を飲み、画面に食い入る。私語する友だちの姿もなく、互いの真剣さ、心の底での深い受け止め方を肌で感じることは、番組視聴を集団で共有する重要な要素である。

自分よりも幼い航平君の我慢強さと、我慢の限度を超えた、家族のための航平君の涙に、子供達は、強く心揺さぶられる。それは、自分自身を対象へと投影させ、自分と航平君とを真摯に比べ直す契機ともなる。

最後に、子供達の心に強く残るのは、酸素用のビニールカーテン越しに兄弟と触れ合おうとする航平君の姿である。母親の「愛する人のためならがんばれる」という言葉と共に、すぐそばに存在すること自体に価値がある家族について、子供達が言語としてではなく、心象として気付く貴重な場面となる。ある子供は、感想をカードに残し、人間として、家族と過ごす時間の重要さに気づけている。ここについて、さらにその価値を意識させ、集団で賞賛できれば、一層人間理解が深まると考える。図3-1及び図3-2では、子供が番組や友だちの感じ方や考え方をどのように受け止め、人間理解を深めていったのかを模式的に示した。

子供達は、番組視聴後に様々な感想をもつ。それらは、これまで述べてきた、ドラマ性や共感性、主体性である。

A児は、初発の感想として「起きているのもつらいのに、弟の誕生日を祝うなんて、とても家族思いだと思った。(中略) 弟たちが来ると自分から立ち上がり、触れようとしている姿を見ると胸を打たれた。家族も航平君が亡くなってからずっと『大切な家族』として接しているのに感動した。」という内容の感想を

ワークシートに残した。それは航平君の生きる事への直向きさや、家族愛への感動である。また、B児は、「私たちはうれしいことしか感じていないけれども、悲しい事にも目を向けた方がいいと思いました。私達が時を重ねているよりも、航平君は濃い時間を過ごした。」と視聴後に書き留め、「わたし達も代わりに一生懸命生きよう」とした他の友だちと命の尊さ、これからの生き方についての視点からの共通な感想を残している(図3-1)。

こうした捉えを元にした話し合いを通す中で、A児はワークシートの最終感想には、「友だちがつかったり、悲しんだりしている時、他人事のようにしていませんか。もしも自分が友だちの立場ならどう思うか考えてほしいです。また、自分を支えてくれる人がいることを忘れず、つらいことにも目を背けず過ごしてほしいです。」という感想を残すようになる(図3-2)。これは、A児に限らず、クラス全体として2~3割の児童に同様に見られる傾向である。

ここに、子供達による番組の再評価を認めることができる。それぞれの子供が、自分の感性や体験を用いて、ドラマ性や共感性、主体性についての感想を持ちつつも、学級集団での話し合いによって、新たな共感性が生まれ、番組についても、またクラスメイト同士についても人間理解が深まったと言える。A児は、B児の「悲しいことにも目を向けるべき」という言葉に心打たれ、また、他の友だちの、「航平君の代わりに一生懸命に生きよう」と言う言葉にも心振るわされ、最終感想を残したのである。そこには、楽しいことばかりでなくても、たとえつらくても「生きることの大切さ」、「家族がいればそのつらさも幸せになる」ことを集団で再認識し直すことが、視聴後の話し合いで保障できたのである。それは、航平君の生き方への畏敬

の念であり、また、A児を取り巻く級友全体への尊敬の念でもある。

子供達は、航平君の姿に学び、また、さらにその姿に気づき評価した友だちにも学ぶ。

それは、子供の人間理解の深まりの一つの姿である。人間が持つ様々な魅力や可能性は、普段は広範囲すぎて、曖昧模糊とした面もある。それが、このテレビ視聴を活用した学習活動によって、いくつかの視点が学習集団によってクローズアップされ、共通理解され、尊重されるのである。ここに、テレビ視聴を活用した学習の大きな価値を認めることができる。それは、番組を遠くの誰かの出来事として学ぶのではなく、今すぐそばにいる自分のクラスの友だちのこととしても親近感を持って学ぶ場面ともなる。この輻輳的な学びが、子供の人間理解を単なる人間理解にとどまらせる事なく、実感をともなって、心情的、実践的理解に発展させるものと期待できる。なぜなら、今の子供達に必要なのは、『命は大切にすべきだ。』といった理解でなく、『命をそんなにも大事にして燃やしている子供がいて、それを認め、感嘆したり、讃えたりしている友だちがいるのだ。』という実感的な理解である。

5. 結論

①「みんな生きている」視聴による、子供たちの映像の中の人間の生き方に対する反応

視聴後の記述からは、番組の特性である「親近性」「共感性」「生命・健康性」「自己実現（自己同一性）」への共感的理解を読み取ることができる。また、どれかのカテゴリーに偏るのではなく、それぞれのカテゴリーにおいて50%、もしくは60%以上の割合で反応が見られる。

映像を通した人間のドキュメンタリーは、児童にとって対象が身近なものとして迫る（親近性）だけでなく、より児童の感性を揺さぶるために共感的に受け止められる（共感性）教材である。

また、視聴した小学生は自分たちと同年代の航平君の生きようとする姿に必然的に、自分自身の生命や体をより強くたくましいものにしていこうとする（生命・健康性）向上心へと高め、今の自分がどう在るべきか、どう生きていくべきか（自己実現・自己同一性）について考える動機付けにもなっているものと考えられる。

なお、久我山小実践においてカテゴリーF「自己対象化（自分の生き方を見直し、自分の生き方に活かそうとする）」が高い頻度を示している。これは、授業展開のまとめの段階で「自分に伝えたいこと」という

発問を児童に投げかけて記入させているためでもある。目的は、「いつまでもいっしょだよ」の授業展開から学んだことをもとに、これからの自分の生き方を見つめる活動として行っている。児童の記述内容からも番組や学級の友達からの学びによって、自然な気持ちで児童の考えが出ているのが分かる。番組視聴プラス教師の働きかけにより、さらに、視聴効果を高めていくことができるものである。

これが、教師の実践的指導力の重要性を意味するものと考えられる。

②テレビ教材のもつ教材としての価値について

本研究では、同じ映像教材を下は8歳から上は12歳を対象に視聴させてみた。教材は発達段階に応じて取捨選択していくことも大切であるが、本研究を通して優れた映像教材は対象が違っていても、被学習者の感性を揺さぶり、同様な価値を探究することが可能である。それは、映像教材のもつ視覚的刺激によるものが大きいと考える。番組の中には、ナレーターの解説である言語による聴覚刺激もあるが、それ以上に映像は説得力をもって迫ってくる。

また、「みんな生きている」はドキュメンタリー番組であるところから番組の登場人物の世界に直ちにいきなってくれる。その結果、番組視聴中の教室では自分自身と登場人物（番組）との対話が自然に行われている。

このように、優れた映像教材は、年齢や学年を超えて、視聴者に訴える力を持ち、感動を与え、自分自身を見つめ直す力になることが検証できた。

参考文献

- 1) 金子 実, 鶴田 裕子, 高野 健一 [他]: 放送教材活用による視聴能力の形成 --NHK 学校放送「みんな生きている」を活用した心の育成 教材学研究 18, 209-218, 2007
- 2) 赤村 晋, 金子 実, 高野 健一 [他]: 生きる力をはぐくむ放送学習 -- 生命教育番組「みんな生きている」の活用 教材学研究 13, 151-154, 2002
- 3) 江崎 桂子: 『みんな生きている』 -- ともに生きるなかまとの心のつながり (特集 心の教育と放送) -- (私の実践する心の教育) 放送教育 55 (5), 21-24, 2000-08
- 4) 金子 実, 須藤 こずえ, 高野 健一 [他]: 生きる力を育む放送学習 -- 生命教育番組「みんな生きている」の活用 日本教材学会年報 11, 192-194, 2000-03
- 5) 横浜市小学校教育研究会: 生きる力をはぐくむ放送学習 -- 実践研究『みんな生きている』の活用 放送教育 54 (2), 66-70, 1999-05

- 6) 塚崎 典子：実践 / 『みんな生きている』(特集 総合学習番組の生かし方・使い方) 放送教育 53 (8) , 18-22, 1998-11
- 7) 横浜市小学校教育研究会視聴覚情報教育部放送教育部会：実践研究「みんな生きている」生きる力をはぐくむ放送学習 放送教育 53 (5) , 50-54, 1998-08
- 8) 「生命環境教育と放送」研究会：実践研究 心と命をはぐくむ学習を -- 『みんな生きている』を活用した授業実践 放送教育 52 (5) , 54-58, 1997-08
- 9) 和田 芳信, 佐藤 拓, 中神 由衣：生命教育のクロス教科的カリキュラム案について -- 『みんな生きている』を中心教材として 日本教材学会年報 (8) , 177-179, 1997-03
- 10) 上田 旬司：大震災から「生」を考える -- 『みんな生きている』を視聴して(特集「心と命」を育てる放送学習) 放送教育 51 (6) , 22-24, 1996-09
- 11) 国立教育政策研究所 教育課程研究センター：「全国学力 学習状況調査」平成20年度 全国学力・学習状況調査 報告書のポイント HP 2015.11月末現在
- 12) 佐島群巳・和田芳信：「人間理解を深める授業づくり」 ぎょうせい 1991 P37

資料1. テレビ視聴「いつまでもいっしょだよ」の番組構成

場面	番組の映像	経過	言 語
1		2:10	今回の主人公は、 <u>病気とたたかいながら家族のことを思い続けた男の子</u> です。三人兄弟の長男だった男の子は、4歳の時突然白血病と診断され、すぐに治療を受けることになりました。けれども、11ヵ月後、この世を去りました。男の子が亡くなって、もうすぐ4年になります。そのころまだ小さかった弟たちは、男の子のことをはっきりと覚えていません。でも、 <u>家族みんなの心の中に、男の子は生きつづけています。</u>
2		3:50	白血病は治療がとても難しい病気です。でも医療の進歩で治ることが多くなっています。男の子は <u>病気を治すため、苦い薬を何種類も飲んでいました。</u> 髪の毛は抜け、熱や吐き気に襲われることもしょっちゅう。大人でもつらい治療ですが、男の子は <u>弱音をほくことはありませんでした。</u> 病室から出ることも、 <u>弟たちが遊びに来ることも許されませんでした。</u> 小さなベッドの上でお母さんと遊んだり、ひらがなの勉強をしたりして毎日を過ごしました。
3		6:25	入院中の男の子の姿をお母さんはビデオで記録していました。ビデオは、親類の家で待つ弟たちに届けられました。そして、弟たちの姿も病院にいる男の子に届けられました。ビデオは毎日のように兄弟の間を行き来しました。 <u>弟たちと遊びたいという気持ち</u> が男の子を支えました。クリスマス、たくさんのプレゼントをもらった男の子は、弟たちにプレゼントを分けてあげることにしました。上の弟にはお菓子を、そして歯がまだ生えていない下の弟にはぬいぐるみを。
4		7:48	入院して3ヶ月。治療は順調に進み、一晩だけ帰ることが許されました。久しぶりに兄弟3人がそろい、男の子はずっと楽しみにしていた弟たちと遊ぶことができました。弟も男の子のそばを離れようとしません。でも、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。 <u>病院に戻らなければなりません。</u> どうしておにちゃんには行ってしまうのかと、 <u>泣き出す弟。</u> みんなの前では、「戻りたくない」とは一言も言わなかった男の子。でも、 <u>車が走り出すと、涙が止まりませんでした。</u>
5		9:12	病気とのたたかいがまた始まりました。 <u>つらいはずなのに、男の子は明るさを失いません。</u> 治療は何ヶ月も続き、いい方向に向かっているように見えました。ところが入院して10ヶ月。容態が突然変わりました。呼吸が苦しくなったのです。体を起こすのもつらく、食事もままならなくなりました。
6		10:01	その頃、1歳を迎える下の弟のために男の子が書いた誕生日のカードがあります。 <u>やっとのことで起きあがり、震える手で一文字一文字時間をかけて書きました。</u> 「そうちゃん、たんじょうびおめでとう」。カードが出来上がると、 <u>倒れこむように横になった</u> といいます。 <u>そんな男の子を見て、絶対になんとかして助かって欲しいとお母さんは思っていました。</u>

7		11:17	<p>家族の思いに反し、男の子の具合はよくなりません。ついに酸素テントに入らないと息ができなくなってしまいました。お医者さんからは、いつ呼吸が止まってもおかしくないと、告げられます。男の子は苦しい息の中で、<u>兄弟の写真をいつも見ていました。そして、「がんばる。みんなに会いたい」と言いました。</u></p>
8		12:46	<p>かけつけた弟たちを見て、男の子は自分から起き上がりました。<u>ずっと会いたかった弟たちを、男の子はじっと見つめます。そして、自分の手でふれようとしました。いつ呼吸が止まってしまうもおかしくないというのに、家族と手をつなごうとする男の子。「生きることをあきらめない。愛する人のためならがんばれる。そのことを男の子に教えてもらったような気がする」とお母さんは語ります。</u> この日の夜、男の子はお母さんの胸に抱かれて、静かに息をひきとりました。</p>
9		14:58	<p>男の子が亡くなって、4年がたちました。赤ちゃんだった下の弟は4歳、上の弟は6歳になりました。<u>二人にとって男の子は、今も大好きなお兄さんです。最期まで家族のことを思い、5年3ヶ月の命を生きぬいた男の子。夜、寝るときには、みんなのふとんの横に、男の子のふとんもしきます。お父さん、お母さん、そして二人の弟たちも、男の子のことを思い出しながら、毎日を精一杯生きています。</u></p>

資料2. 番組場面における抽出児の視聴様態

この表は、番組場面に即し、ある子供の視聴の様態を示したものである。番号は資料1に対応している。

場面	学年	子ども視聴傾向		
		ドラマ性	共感性	主体性
1				
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・辛いのに叫んだりしないのが、とても偉い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今元気なことがとても幸せ。 ・アレルギーがなくて幸せなことが分かった。 ・生きていることがとても大切なこと。 ・生きていることに感謝。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を大切にしていた航平君にはプレゼントをあげたいな。 ・自分には分からないプレゼントをあげてみたいです。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・大人でも苦しい治療を受けているのに、弱音をはかなくて、ほとんどの時間明るくふるまっていて、とても強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私だったら弱音を吐いて家族を困らせてる。 ・5歳3ヶ月で死んでしまってかわいそう。 ・命の大切さが分かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと命を大切に、困っている人を助けていきたい。 ・病気に、もしなったら航平君のようにあきらめずがんばって生きたい。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のために一生懸命に生きようと思った。 ・4歳で弱音をはかないのがすごい。 ・病気を治すために苦い薬を飲んでそれでも家族のことを思っていて本当にすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼いのに弱音を吐かない、家族のために頑張る、航平君に感動しました。 ・こんなに強いお兄ちゃんがいたら、きっと弟たちもがんばれそう。 ・良く頑張ったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私には、病気のおばあちゃんがいま。もう歩けなく、しゃべること笑うこと、ご飯をおいしく食べることしかできません。でも、いつも笑顔です。だからこそ、孫の私たちが支えて毎日楽しく生きて欲しいです。
	<p>病気を克服するために、苦い薬を飲んだり、大人でも苦しい治療を受けていたりする姿に、感動や共感を感じる姿が見られる。そこから、生きることの大切さや生きていることの感謝の心が生まれている。この気持ちが、自らの生き方へと考えることにつながっている。</p>			
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちよりも小さいのに弟のことを思ってお菓子をあげるところが感動した。 ・クリスマスのプレゼント分けるのがいいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な弟たちにプレゼントを分けて、弟たちが来た時も自分の手で触れてあげようとしたところに感動した。 ・心の優しい航平君のように僕もなりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族でずっというということは、とてもいいことだな。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君はすごくがんばっていた。 ・白血病になって、かわいそうだった。 ・もらったクリスマスプレゼントを弟に分けてあげてすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君が死んでしまってかわいそうだ。 ・命は、とても大切だと分かった。 ・白血病でも弟に会いたいという気持ちが伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にして航平君みたいに生きていこう。 ・命を大切にしながら、生きていきたい。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいのに弟たちにプレゼントを分けてあげ、死にそうな時まで弟のことを思っていてすごく優しい。 ・最後まで、弟たちの事を考えていて、やさしくて家族思いの子だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が辛いはずなのに、必死に生きていてすごい。 ・入院してから三ヶ月後まで弟に会えず、ビデオだけを心の支えとして、大人でもつらい治療をたえている航平君は、いろんな人の心をはげましてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中にはこうして病気と闘っている人もいるので自分がちよつとのことであきらめないでがんばろう。 ・自分が航平君のような立場でも人を思いやって頑張ることが大切という事を伝えたい。
<p>子供たちにとってプレゼントは身近で大切なものである。それを、病気である航平君が弟たちにあげる姿は、素直な感動を呼び起こした。その姿から、人に対する思いやりを感じ取っている。</p>				

4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に帰るとき車の中で泣くのは家族の絆を思い出そうとしている？ ・お母さんはつらくても航平君ががんばる姿を見ている。 ・家に帰りたくないと弱音を吐かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いなくても弟達は航平君が好き？弟達も同じ気持ち？クリスマスプレゼントをもらったのが嬉しい。 ・みんなは兄さんのことを覚えているのがすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし白血病になったら私は落ち込むけど、家族を思い出してみたらどんな病気でも勝ち抜くでしょう。 ・いつも笑顔でいたら家族もどんなにどんなにつらくても笑顔だと思います。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君は悲しくても、家族がいる時は楽しくしてた。 ・まだ5歳なのに弟への思いがすごくやさしい。 ・小さくて病気にかかっているのに笑顔で兄弟がすごく好きで家族思いな子。 ・白血病になっているのにいつも笑顔で暮らしていたからすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ってる生きようとしている人はたくさんいると分かったので、僕ももっと頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手術がない自分にしたいです。病気があってもがんばる。 ・頑張ってる生きようとしている人はたくさんいると分かったので、僕ももっと頑張ろう。いつか恩返しを家族にしたい。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な病気なのに明るく元気なのにびっくりした。 ・印象に残ったのは、航平君が弟たちと遊んで、帰るところです。私の弟は、とても生意気で、私のことをバカにするけど、弟と会えなくなるということは想像ができません。 ・当たり前のことができない航平君は、とても寂しいはずなのに、弱音を吐かずに明るく頑張る姿に泣きそうになりました。 ・1日だけ帰れた時も、泣いていたけど弱音を吐かず、ただ泣いているだけで、5歳なのにすごい！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のために生きる気力を失わない航平君の生命力に感動した。 ・自分と立ち向かうことはつらいと思う。家族と会えないのも苦しいと思う。だけどそれをのりこえて生きるのももつとつらい。 ・5才の子に、勇気をもらえて、いつも家族を思って生きていて、すごい！けれど、もし病気になったら家族を思えますか？苦しい中で…。 ・航平君が伝えたいことは、家族の前では明るくいてね、人を思って生きてねということかな？ ・5才3ヶ月の命はとても大切だと感じた。命は体を支えている物だけど、壊れやすい物。でも、その命を支えているのは自分の家族達です。 ・私達は嬉しいことしかまだあんまり感じてないけれど、悲しい事にも目をむけた方がいい。私達が歳を重ねて生きるより、航平君は濃い時間を過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だけのことでなく、周りの人の喜び、悲しみにめをむけてはげましたりできるようにになりたい。 ・この話を他の人にも伝えて、思いやりの気持ちをみんなに持って欲しい。みんなですごく時間を大切に。 ・僕も航平君を見習い、家族のために生きる愛と献身の感情を学ぶと共に、幼くして命を亡くしてしまう人がたくさんいらっしやる中で生きていけるのは幸せだ。 ・自分とつながっている人が死んでしまったのを直接見たことはない。でも、私が小さいころ、よく遊んでくれた人はもういません。だから、命はとても弱いもので、壊れやすいけれど、命は強くなれるので、大切にしたいです。
<p>弟たちとの触れ合いを楽しみにしている航平君、別れる時はぐっと我慢をしながらも車の中で泣いてしまった航平君の姿から、航平君の優しさや強さ、家族への愛着を感じ取っている。その姿から自分はどう生きればいいのかを考える様子が分かる。</p>				
5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・とても感動した。病気なのに明るさを忘れず、笑顔でいた航平君はとても印象的。 ・「家族に会いたい」という気持ちが航平君を元気づけてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きているって大切で嬉しいこと。自分を大切に楽しく生活したい。 ・辛い病気なのに明るい笑顔で頑張る航平君に生きるということを教えてもらった。 ・「家族に会いたい」という気持ちが航平君を元気づけてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辛くても頑張る最後まであきらめないでがんばる。 ・もしも自分になっても明るくしなきゃな。 ・もし病気になって生きられなくなっても航平君みたいに笑顔でいたい。つらくても「絶対に生きる」という思いが、あつて立派でいたい。できたら私も航平君みたいになりたい。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・病気で辛いのに頑張ってる生きている。辛いのに病気を治して家族と会いたいという思いで頑張ってる生きられたんだ。 ・白血病とわかってても明るく笑顔でいられてすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がわかってから2回ぐらいしか家族に会えなくて僕だったら寂しくてずっとそこにいたいけど、航平君は病院に戻って一生懸命病気をたたかっているのがすごい。この番組を見て生きることは大切だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから命を大切に辛いときでもがんばって生きてみたい。 ・病気で亡くなってしまった人や家族を失ってしまった人もいるから、家族や友だちを大切に、一日一日を過ごしていこう。 ・いつも家族と喧嘩しているけれど、そういうことも、生きているからこそできる。

5	6	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君が入院した時、つらいだろうなと思わず声に出そうとするぐらいになった。 ・僕は、「あれ」と思いました。なぜかという、病院の中でもっこりして、弱音をはかずにいたからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しくても笑顔でいれば何でも楽しくなるということや、弱音をはかないことによって何でもやりきれるということも教えてもらった気がします。 ・9ヶ月くらいまでは良い方向にいったのでこのまま治れと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君みたいに白血病にかかってもかからなくても、いつもっこりして、家族のことを思いやりたい。 ・勇気をもらいました。なぜかという、一番長男の航平君が白血病にかかったけれど、弟達しゅうじ君とそうた君たちの前もそうでない病院に居るときにもニコニコ笑っていたからです。けれど10ヶ月くらになると呼吸困難におかされていました。
	<p>病院に戻っても、つらいはずなのに明るさを失うことなく治療に専念する航平君から、明るく一生懸命に生きることの大切さを学んでいる。「9か月くらいまでは良い方向にいったのでこのまま治れ」という言葉のように感情移入した様子がある。</p>			
6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しい病気の中で書いた誕生日の手紙が心に残った。 ・航平君は兄弟の誕生日にカードを震える手で書いたのが偉いと思いました。 ・髪の毛が抜けたり、呼吸をするのがかわいそうだと思いました。 	<p>まだ、自分よりも小さいのに辛い病気になって、死んじゃってかわいそうだった。それから兄弟達は、いつまでも航平君の事を忘れないのが優しいと思いました。</p>	<p>最後まで「生きる」「あきらめない」ということを教えてもらいました。航平君もがんばっているのでも僕も航平君のように病気になったらがんばります。すごい航平君です。ほくもまねします。</p>
	4	<p>航平君は、いつ死んでしまうかわからない状態なのにいつまでも家族思いですごい。5才3ヶ月の命でもその間をしっかりと生き抜いた！</p>	<p>私がかも航平君のように白血病だったら航平君のようにこんなに強くはなれないと思います。</p>	<p>白血病の航平君でもいつでも笑顔だったから私は航平君の100倍の笑顔でいたいです。一日一日を大切にしたい！</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいだけあって生きる力もそんなになくても、弟の誕生日カードを書いたり、自ら立ち上がり弟の手にタッチするなど本当に最後まで家族を大切にしているんだ。 ・呼吸もままならない状態で弟のために誕生日カードを書いてあげようとする家族への愛の深さを身にしみて感じた。 ・自分の遊びたい、食べたい物をがまんし、弟のためにすこいつらい中、手紙を書いている姿がすごい感動しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃に白血病にかかってしまい、苦しみにも耐えながら必死に生き抜く航平君を尊敬しました。 ・それに比べて僕は何も大きな病気にかからず幸せだなと思えた。 ・このような映像を見ると自殺する人は一生懸命生き延びようとする人がいるので命を大切にしたいなと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人のことも考えて今を生きようと思いつけることが大切だ。 ・この世には生きたくて生きたくてめげずがんばって生き延びようとしている人がいます。 ・どんな困難でもめげずに航平君みたいに最後まで命を大切に生きていこうと思いました。 ・しっかりと病気の事も考え、航平君みたいに、これからの生活を一生懸命やっていきたいです。
<p>病床の中、1歳になる弟に対し命を削るように一生懸命に誕生日カードを書く姿は、子供たちに大きな感動の渦を巻き起こした。必死に生き抜く航平君に「尊敬」の念を抱く子供もいた。</p>				
7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に航平君は頑張ったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも弟たちの心の中で生きていて弟たちが忘れないようになってほしい。 ・5才だけど、家族や弟たちと遊びたいという気持ちがあったから、がんばれたんだなと思って泣きそうになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし病気になって生きられなくなっても航平君みたいに笑顔でいられたらいい。 ・つらくても「絶対に生きる」という思いがあって立派だと思いました。私も航平君みたいになりたいです。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・病気でも弱音を吐かずに、戦い続けたことは素晴らしい。だから、亡くなくてもみんなの心の中にずっと生き続けていたんだ。 ・家族も航平君が亡くなってから、航平君を大切にしているのだから、本当にいるのだと思った。 ・航平君はすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の一つしかない命は大切だ。 ・一日を大切に生きよう。 ・病気でも弱音を吐かずに、戦い続けたことは素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからを大切にしよう！病気の人たちのことを思い出しながら！→寄付(できれば)してあげよう。

7	6	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残ったのは、家族に会いたいという航平君の気持ち。 ・すごいと思ったのは航平君が弱音を吐かないというところ。私だったら絶対に弱音をはいていると思ったのですすごいと思った。 ・最後に残念だったけど、懸命に生きる姿がすごい。 ・最後に酸素テントの中から手を出したのは、何かを弟達に伝えたかったんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横幕航平君が必死に生きてることに感動した。 ・家族が1番辛いこともよく分かりました。 ・一番思った事は「航平君はとても心が強い子だな」と言うこと。 ・大人でも嫌な治療や薬もそうですが、病室にしかいられなかったり、体の自由を奪われても、決して弱音を吐かずに、自分のことではなく、大好きな家族を思いやれてスゴイ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼くして命を亡くす人がいる中で自分は生かされてもらっており、その幸せや命を亡くした人の無念を考えながら生活するべきだ。 ・航平君のように強い意志を、諦めない心を持ち、逆境に打ち克てるようにしよう。 ・家族を愛する心、献身の心を持ち、自分にできることは何かないか、考えて生活するべきだ。
	<p>いつ呼吸が止まってもおかしくない状態の中で、いつも弟たちの写真を見ていた航平君の姿から、航平君の家族への思いや家族がいることが心の支えになっていることが分かる。子供からは、人の為に生きることの気付きが見られる。</p>			
8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君は最期までがんばったんだな。 ・酸素テントはどうなのかと思いました。そういう病気は苦しいのだろうと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君は病気なのに、あんなに生きたなんてすごい。 ・最後まで「生きる」「あきらめない」ということを教えてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな病気になっても最期まで生き抜きたい。 ・息が苦しくなっても病気を治すことをがんばりたい。いつまでも生きていたい。病気にかからないようにがんばりたい。 ・病気にかからない楽しい毎日を過ごしたい。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳3ヶ月しか生きていないからかわいそう。 ・航平君は家族思いでやさしい。 ・白血病で苦しいのに最後まで弱音を吐かずにがんばって生きていたので感動した。 ・病気で頑張ってたかかってきたのに、5歳3ヶ月で亡くなってしまっかわいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱音を吐いていないのがえらい。 ・家族に会いたいという気持ちが伝わった。 ・生きようとする自信が伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きていることは大切なこと。もし、すぐ落ち込んだり病気になったりしても自信をもつことが大切だ。 ・命の大切さを航平君から教わったので、苦しんでいる人のために自分にできることをやっていきたい。 ・自分も4歳の時に酸素が少なくなって酸素マスクをつけたことがあって自分では覚えていないけれど、お医者さんが治してくれて感謝しています。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君が幼い弟と酸素テントの外とで手をつないでいたことが、とても印象に残った。 ・何で、思い通りにいかないんだろう。 ・クリスマスイブ、自分のプレゼントも分けてあげて、すごい。 ・弱音を吐かない、苦しいときも力強く闘う。 ・5年3ヶ月の間で、自分たちより精一杯生きていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなに辛くても元気にふるまって周りに心配をかけないという気遣いのような気持ちや最後まであきらめないという気持ちが伝わってきた。 ・5才3ヶ月で「し」を迎える時、母の胸に抱かれて死んだとき、母はどう思ったろう。航平は「し」を迎える時航平はどう思ったろう。 ・5年3ヶ月の間で、自分たちより精一杯生きていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君は兄弟になかなか会うことができず、私がいとこと遊んでいる時間より少ないから結構さびしかったと思う。 ・航平君みたいに、苦しくても明るくしようと頑張るって生きたい。 ・ほくも嬉しい事だけではなく悲しい事にも目を向けてこの先に何かあっても最後まであきらめずにやりきる。そして今までよりも家族と大切に過ごしたい。
<p>子どもたちの中でも、一番心を揺さぶられた場面であった。多くの児童が最後まで生き抜く姿、いつまでも家族を大切にす航平君の生き方を感動をもって見入っていた。一人の人間の「死」と向き合う姿から、生きていくことの意味を考える姿が見られる。</p>				

2	<ul style="list-style-type: none"> ・航平君のがんばったことが良かった。 ・航平君と弟達がとても仲が良さそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族ってとても大事なんだ。 ・5年3ヶ月の短い人生だったけれど、それを元気にいきいきと過ごしたのがすごかったです。 ・弟達が布団を引くのもすごかったです。 ・航平君は短い人生の中で、のびのびと生きて死んだ時も幸せだったのかなあ？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・何でもかんでも思い通りには行かない。最後まで張り切って生きて、子どもも産んで生きる。お姉ちゃんとして生きて行かなきゃね！ ・僕も航平君みたいにおじいちゃんやおばあちゃん、父、母がなくなったら、航平君の家族を見習わないといけない時がくることを知らない。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・亡くなっても家族はとても大切にしていた。 ・苦しい時にも弱音を吐かないで頑張っていた。涙を見せなかった。 ・必死に生きようとしている。家族の心の中で生きている。 ・航平君が亡くなってからも、弟達はお兄ちゃんを大切にしていって良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感動！！一瞬泣きそうになった。 ・今でも航平君は弟たちのそばで見守っている。 ・お兄ちゃんがいなくなってしまっても、心の中にずっといるので忘れられない存在だ。 ・兄弟はとても大切です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命と言うものはひとつしかないので大切にしなければならぬ、一日一日を大切に生きねばと思った。 ・自分のことで頭が一杯にならないで、お年寄り、病気の人にも気配りをしてあげる。 ・これからも(しっかり)生きていこう。生きる意味を教えてください。
9 6	<p>航平君に家族が4年たった今でも、ふとんを毎日ひいたり、おいのりを毎日している姿がすごいと思いました。それから四年後の航平君の家族はいつまでも航平君といたいから、夜いつも航平君の分をひいたりしていたので、この番組の通り、いつまでもいっしょだよということになっていることに感動しました。</p>	<p>5才3ヶ月を必死に生き抜いた航平君に悔いは無いと思う。亡くなってしまった兄をいつまでも忘れず、心の中に留める弟達に感動した。また、家族がいるのは当たり前ではないので、家族がいる自分は幸せだなと思いました。航平君は死んでしまう直前に何を考え、何をしたいと思っていたのだろうか。それが少し気がかりである。</p>	<p>航平君のように何事もすぐに諦めずに取り組んだり、困難や苦しいことにも向き合っていきたいです。私の祖父も病気で余命を宣告されていましたが、宣告された余命よりも10年も長生きして私達に優しくしてくれたので、改めてもっと感謝しなきゃいけないなと思います。弟も、兄のことを思う気持ちにとっても感動した。短い時間を自分たちより精一杯生きた。弟達は小さかったのに、忘れずに「いつまでもいっしょ」と思いつづけている。私はこの番組を観て改めて、「家族や命の大切さ」に気付かされた気がします。</p>
<p>この場面では、寝るときにも必ず航平君の布団を敷く家族の様子から番組名の「いつまでもいっしょだよ」を彷彿とさせる。子共たちも命の普遍性や永遠性を感じ取っている。また、自分自身の経験を重ねながら、命の尊さやいかに生きるべきかを考える様子が見られた。</p>			

